

《新着本の紹介》

読書の秋到来！ 新刊も続々入荷！



『ななみの海』

朝比奈あすか 双葉社



『その本は』

又吉直樹 ポプラ社



『カレーの時間』

寺地はるな 実業之日本社



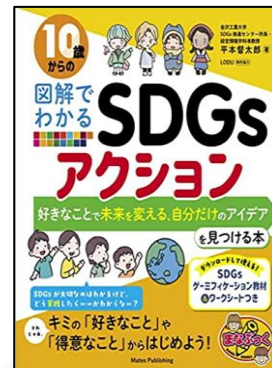
『14歳からの水と環境問題』

インフォビジュアル研究所 太田出版



『クラシック作曲家列伝』

やまみちゆか マール社



『10歳からのSDGsアクション』

平本督太郎 メイツ出版

Information

高3必見!!

小論文関連の本や参考書などもあります！
皆様のご利用をお待ちしています。



* 今月号は中学教頭の松井先生から2冊、皆さんにおすすめの本をご紹介します。

オススメ



『恋する伊勢物語』
俵万智著 筑摩書房

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と

答える人のいるあたたかさ

中学二年生の国語の教科書に掲載されているこの短歌は、『サラダ記念日』でお馴染みの俵万智の作。斬新な切り口で鋭い感性、それでいてやさしい言葉で問いかける俵万智が、脱線しながらもユーモラスに平安の恋愛論を語る。

私の一押しは、八尾が舞台となっている「筒井筒」の段。在原業平と高安の女の逢瀬の話である。価値観や感性は時代ごとに異なるとは言うものの、男女の機微には、共感しあえるところが多い。初々しい恋心「はぢかはす」は「恥交わす」なのだが、残念ながらその気持ちはいつまでも続かない。

古典の学習では文法中心になりがちで、苦手意識を持っている人も多いのではないだろうか。異文化理解によって自分の生き方を再発見することがあるように、本来の古典学習も同様だ。この他、古典をわかりやすく読み解いてくれる俵万智の作品に、『愛する源氏物語』がある。どちらも雅で風流な世界に引き込まれていくことだろう。

私の一冊



『塩狩峠』
三浦綾子著 新潮文庫

若き鉄道職員、永野信夫は自分の結納のために札幌に向かう途中だった。汽車が塩狩峠の頂上にさしかかった時、最後尾の客車は連結を離れ、後ろ向きに暴走する。車内では恐怖に怯える乗客たち。信夫はたったいまのこの速度なら、自分の体でこの車両をとめることができると、とっさに判断し、我が身を車輪止めとするために線路に飛び降りる。

真摯に生と向き合い、そして、衝撃の最期。私は中学生の頃、初めてこの作品に出会った。三浦綾子の作品に触れるたび、「人として生きること」を自問する。大学生になって、塩狩峠を訪ねてみた。長く続く勾配を眺めたあの日から四十年の年月が経った今も、自問していた答えが見つかったわけではない。

「熟読玩味」という言葉がある。文章をよく読み、じっくり考え、深く味わうことである。熟読玩味することで知識や教養を身に付けることは大切だが、見つからない答えを探し求めることもあっていい。夜が長くなった時節、時に物思いにふけてみてはどうか。